

第2次那須塩原市総合計画策定のための市民ワークショップ開催結果報告書

1 目的

第2次那須塩原市総合計画（基本構想「10年後に目指すまちの姿」など）に市民意見を反映させるため、集団議論された市民意見を収集することを目的として開催しました。

2 ワークショップ概要

- 日 時 平成27年11月15日（日曜日） 午前10時～午後5時15分
- 場 所 塩原もの語り館（那須塩原市役所集合）
- 参加者 市内在住者13名
- 内 容 「とて焼で表現！市の10年後の姿」

Q&A

Q1：とて焼とは何ですか？

A1：塩原温泉を走るトテ馬車で昔使われていたラッパ型のクラクションを模った食べ物で、平成23年に誕生しました。外見はクレープのようですが、クレープとは違い、カステラに近い生地で作られています。生地には、那須塩原市産の牛乳と卵を使い、中の具材はお店によって異なります。塩原温泉街を散策しながら食べられる新しい名物です。

Q2：どうしてとて焼で表現するのですか？

A2：2つの理由があります。

①総合計画策定のための市民アンケートで、次世代に残したい風景・場所の第1位が塩原温泉でした。そのため、塩原温泉の新名物のとて焼を使おうと考えました。

②とて焼の具材は店により多種多様です。甘いものはもちろん、お寿司やそばが入ったものまであります。多様性のある「まちの姿」を表現することに適した素材と考えました。

3 当日のプログラム

- 10:00 受付
- 10:10 市役所出発
- 10:10 イントロダクション（趣旨説明・自己紹介など）
- 10:50 塩原もの語り館到着
- 11:00 グループワーク①「目指すまちの姿」
- 12:30 昼食・まち歩き
- 13:30 グループワーク②「目指すまちとて焼」の創作
- 15:40 プレゼンテーション（発表）
- 16:00 講評
- 16:30 塩原もの語り館出発
- 16:30 フィードバック（振り返り、主催者まとめ）
- 17:15 市役所到着・解散



4 グループワーク①「目指すまちの姿」

3グループに分かれ、目指すまちの姿について議論しました。

まずは個人で目指すまちの姿を考え、グループ内で意見の交換、共有をしました。その後、グループでの議論を経て、それぞれのグループで1つずつの「目指すまちの姿」を導き出しました。

【Aグループ】

自然と人が共存するまち	観光のまち	観光できた人がまた来たいまち	交通機関が充実しているまち
市民の意見をすぐ実行できるまち	さまざまな年代の人が助け合いながら暮らせるまち	住む人の意見が発信できて反映させることができるまち	地域の資源を活かし、循環させるまち
人の個性や特性や強みを活かし、人材を人財にするまち	10歳若返り、人口の増えるまち	県北のリーダーであるまち	日本一のIT環境づくりを行うまち
自然とものづくりのまち	生乳生産本州一のまち	クリーンエネルギーのまち	住みやすいまち
ウインターリゾートのあるまち	地域ぐるみで助け合えるまち	子育てがしやすいまち	どんな環境に置かれた家庭も生きやすいまち
	女性がもっと活躍できるまち	子どもがのびのびと成長できるまち	



新しい特色を生み出せるまち

【Bグループ】

戻ってきたくなるまち	温泉といえば那須塩原と言われるまち	自然、ショッピング、レジャーなんでも楽しめるまち	ものづくりのまち
食べ物がおいしいまち	ヒマにならないまち	観光よりも住みたいくなるように思うまち	夜でも楽しめるまち
安心安全なまち	三世代で住めるまち	できるだけ完結できる循環型のまち	市民がのびのびイキイキできるまち
健康なまち	住みやすいまち	高齢者が安心して住めるまち	結婚しやすいまち
子どもたちをみんなで見守れるまち	開放感があるまち	高齢者が輝けるまち	高校生(学生)が集まり楽しめるまち
	子育てがしやすいまち	つながれるまち	



誰もが住みやすく戻ってきたくなるまち

【Cグループ】

エコなまち	健康であるまち	自然が豊かな 美しいまち	買い物に困ら ないまち
おいしい食べ物 が食べられるま ち	障がい者も外 出しやすいまち	地産地消が充 実した食の安全、 安心なまち	農業経営者が 増えるまち
子育てしやすい まち	子どもの笑いが あふれるまち	安心して住める まち	みんながまちの 将来を考えてい くまち
みんなが働きや すいまち	親切な市役所 のあるまち	前向きなまち	動きやすいまち
途中下車したく なるまち	おもてなしので きるまち	お土産選びに 困らないまち	地元が大好き になれる(誇り に思える)まち
	市外の友達を 呼べるまち	みんなで協創で きるコミュニティ の充実したまち	



資源を活かし健康に過ごせるまち



各グループでの
検討の様子

5 グループワーク②「目指すまちとて焼」の創作

グループワーク①で導き出された3つの「目指すまちの姿」をとて焼になぞらえて表現しました。

目指すまちをつくるうえで最も大事な柱を「メイン具材」、メインを活かす要素を「サブ具材」、具材を包み込む（支える）下地となる要素を「生地」、それぞれの具材をつなぎ合わせる要素を「調味料（ドレッシング・ソース）」などとして表現しました。

【誰もが住みやすく戻ってきたくなるまちとて】⇒若者に焦点を絞って検討

メイン具材：「働き方を選べる」

サブ食材：「職場体験」、「企業認知」、「交通の便」、「市の景観」、「子育て支援」、「介護支援」

調味料：「働く場所の魅力アップ」、「働く場所の魅力アピール」

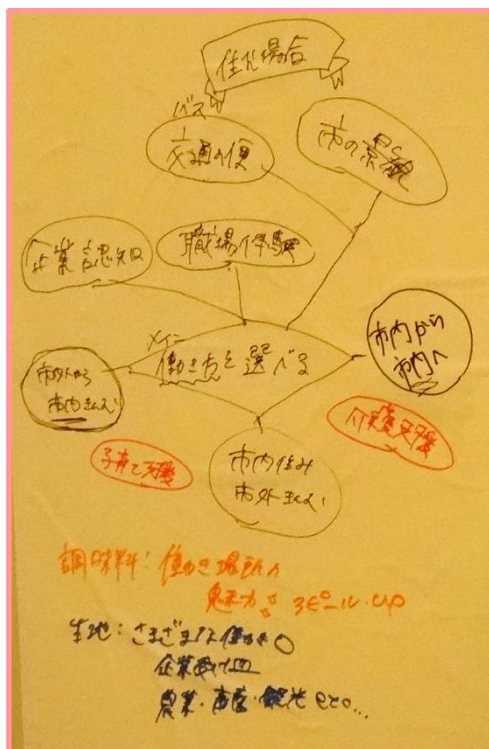
生地：「様々な働き口」

■このとて焼の特徴

若者が戻ってくるためには、「働き方を選べる」、選択肢があるということが一番重要と考えます。

若者が職を選ぶ時に、「職場体験」ができて職場を知っていれば、那須塩原市が選択肢となります。市内にどんな企業があるのかを知ってもらうことも選択の幅を広げる方法のひとつです。「企業認知」のためには、ICTを活用することが最も有効な手段だと考えます。例えば、様々な企業等を知ってもらうための那須塩原市就職チャンネルを開設してはどうでしょうか？また、子育て世代の若者が働きやすいよう「子育て支援」が充実していることや、ますます高齢化が進んでいく中で、介護をしながら働かなくてはならない人の負担を減らす支援策（「介護支援」）が充実していることも必要です。それぞれの「働く場所の魅力アップ」させたり、「魅力をアピール」をしたりすることで、那須塩原市を選んでくれる方が増えることとなります。それを支えるためには、企業の受け皿や農業、畜産、観光などの「様々な働き口」が整っていることが欠かせません。

「働き方を選べる」という意味は2種類あります。①様々な種類の職種の中から選ぶということ、②自分の境遇にあった働き方ができるということ。このとて焼で示したように、多様な「働き方を選べる」ようになることで、若者が「住みやすく戻ってきたくなるまち」となっていくと考えます。



【資源を活かし健康に過ごせるまちとて（とっても元気!!とて）】

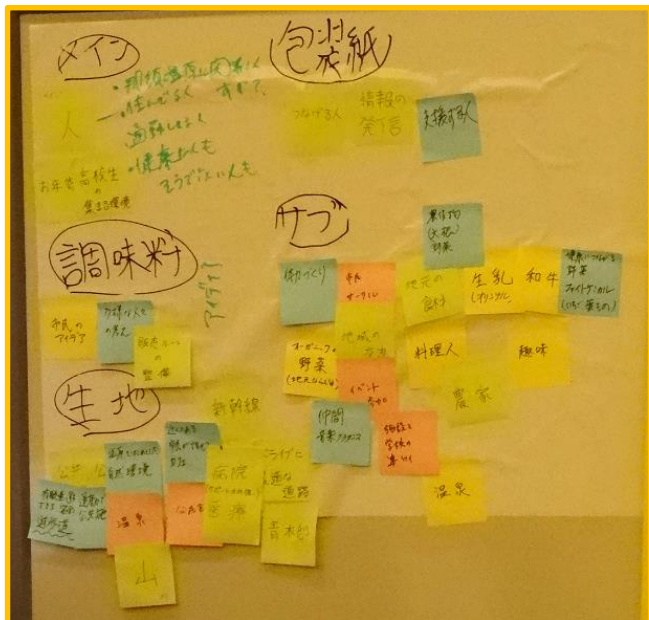
メイン食材：「人」

サブ食材：「市にある豊富な資源」

調味料：「市民のアイデア」、「新たなつながり」

生地：「コミュニティを生み出す場所」

包装紙：「情報の発信」



■このとて焼の特徴

市内には、地元の食材（農産物、生乳、和牛など）、温泉、イベントなど「豊富な資源」がありますが、それらを単純に生産・消費するだけではなく、「人」が活用していくことが重要です。「人」とは、住んでいる人、通勤している人、観光客、市に関心のある人など那須塩原市に関係する全ての人のことです。

市民が「アイデア」を出し、「人」と資源を「新しいつながり」でつないでいくことで、新しい資源が生まれ、さらに活用することができるのではないのでしょうか。例えば、既存の販売ルートではなく、生産者から料理人に直接売ることでも「素材はいつも安心して新鮮」を売りにした看板メニューが生まれるかもしれません。逆に料理人からの要望で新たな農産物を生産することになり、それが地域の新しい特産物となるかもしれません。

そういったアイデアを生み出す場所となるのが、公共施設、公園、カフェといった「コミュニティを生み出す場所」です。

コミュニティに人が集まり、市民のアイデアをフル活用して、地域の資源をうまく融合させていくことで、まちが元気になっていきます。そして、こういった取り組みを市内外に広く「情報発信」していくことでまちの元気をさらに高めていきます。



【新しい特色を生み出せるまちとて】

メイン具材：「データベース」

サブ食材：「様々な課題」 例：福祉、教育、環境、コンパクトシティなど

調味料：「ICT コミュニティ」

生地：「ラボ（研究所）」

■このとて焼の特徴

今回のワークショップのように、それぞれのコミュニティなどでよい活動や検討をしても、限られたメンバーが知るだけではもったいないと思いませんか？そういったモノを誰もが覗けるようにするというのを第一に考えて検討しました。

まず、このとて焼のメインは「データベース」です。データベースとは、市民や市の団体などが「様々な課題」などに対する情報を双方向で共有し、常に最新の情報に更新してあるものです。市民は、何か困った時に「ICTコミュニティ」を使って、データベースから問題解決に役立つ情報を得て、その情報を活用し問題解決をします。さらに、その問題解決行動から得た知見をデータベースにフィードバックすることで、情報を最新にしておくことになります。



このデータベースを活用する上で基礎となるのは、「ラボ（研究所）」です。IT に特化した研究所で、データベースの活用や管理について、技術提供や研究を行います。さらに、ラボがあることで、雇用が生まれます。ラボに勤務する人はもちろんですが、ラボの研究成果を活用したモノを創る企業ができ、さらなる雇用を生むかもしれません。こういった研究所が複数できそれらを集約したシリコンバレーならぬ「那須コンバレー」ができることが理想的です（10年後は厳しいと思いますが…）。

人が学びながら作っている情報をどのように活用するかが重要です。そういった情報を資源と捉え、資源を活かきるまちとなることで新しい特色が生み出されていきます。

